

あしたの街は私がつくる



ごあいさつ



長崎市都市景観賞 表彰実行委員会委員長
伊藤 一長

2003長崎市都市景観賞ならびに都市景観賞奨励賞を受賞された皆様に、心よりお祝いを申し上げます。

昭和62年にスタートいたしました本賞は、今回で第13回目を数え、市民の皆様の間にも広く定着してまいりました。これもひとえに関係者の皆様及び市民の皆様のご支援の賜物と、深くお礼申し上げます。

さて、近年は、「地方の時代」とも言われており、地方都市にとって、大きな変革の時代を迎えています。

本市におきましても、平成17年の市町村合併を控え、また、高速道路や女神大橋の開通など、大規模な事業の完成が次々と予定されていることから、まちなみや人の流れも大きく変化してまいります。

また、地方の景観行政も大きな転換期を迎えていることから、平成16年には、美しい景観を活かした地方都市の再生を目指し、「景観緑三法」が制定されます。このことは、本市の都市景観行政においても、これまで以上の追い風になるものと、大きく期待いたしているところでございます。

最近の経済情勢の中で、ゆとりの部分を追い求めるのは、大変困難な状況になってきておりますが、市民の皆様の思い描く「住みよい、美しいまち」を実現するために、市民と行政が一体となってまちを育てていかなければならないと考えております。

今回の受賞作品は、長崎の歴史を語り継ぐための祈りの場を創出した建物や、市民の思い出に残る場所を再生、活用した建物など、これからの長崎のまちづくりの方向性をあらわした作品ばかりではないかと思えます。そういう意味で、本賞が広く市民の皆様都市景観に対する意識の向上を図る、重要な役割を果たすものであると期待している次第です。

最後に、ご応募していただきました多くの市民の皆様、また、ご尽力いただきました選考委員の皆様、深く感謝申し上げますとともに、今後とも長崎のまちづくりにご理解、ご協力をいただきますようお願いを申し上げます、挨拶といたします。



長崎商工会議所会頭
野崎 元治

2003長崎市都市景観賞ならびに都市景観賞奨励賞を受賞されました皆様、おめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

本賞は、1987年に「長崎市都市景観建築賞」として発足して以来、長崎らしい街づくりを進めるため、長崎の歴史的背景や地理的特色をいかし、優れた都市景観の形成に寄与している建築物や街並み等に贈られて参りました。

13回目を迎えた今回は、3つの都市景観賞、2つの都市景観奨励賞が表彰されることとなりました。

いずれの受賞作品もそれぞれのテーマに相応しく、長崎の良好な都市景観形成に必要な不可欠なものであるものと思えます。

さて、長崎の都市機能の整備に関しては、港町長崎の新しい顔として、長崎港常盤・出島地区の海辺の緑地公園や運河沿いの散歩道が整備されるとともに、平成17年完成予定の「長崎県新美術館（仮称）」や「歴史文化博物館（仮称）」、また、平成18年の完成を目指し建設が進められている「女神大橋」など、新たな長崎の風景を創出する街づくりが進んでおります。これらが長崎の魅力をもより一層引き出すものと確信しております。

長崎らしい、魅力ある都市景観づくりを進めていくためには、今後も行政・民間が協力して、街に活気を与え、広く長崎の魅力を発信することができるよう努力していくことが重要であると思えます。

本賞は、平成12年より隔年実施となりましたが、選考が行われない年には「中島川まつり」、「ながさきみなとまつり」、「都市景観の日」等で過去の受賞作品のパネル展示を実施するなど、本賞や都市景観に対する関心をより一層高める啓蒙活動にも取り組んでおります。

今後も長崎市都市景観賞が、多くの市民の皆様街づくりへの関心をより一層深めていただく事業となることをご期待申し上げます。

最後に、今回の都市景観賞応募にご協力いただきました皆様並びに、本事業の実施にあたってご尽力いただきました関係各位、選考委員の皆様へお礼を申し上げましてご挨拶といたします。

選考を終えて



長崎市都市景観賞 選考委員会座長
宮原 和明

2003長崎市都市景観賞並びに都市景観賞奨励賞を受賞された皆様に、心からお祝いを申し上げます。

長崎の大景観は女神大橋の完成によって大きく変わるでしょう。また、長崎で初めての高層建築も完成しようとしています。このような状況の中で、今、斜面都市長崎の大景観、中景観、小景観や街並み景観の秩序やその方向性について議論し、市民コンセンサスを構築する必要があると考えています。

一方、時代は成長社会から成熟社会へと移行しなければなりません。スクラップアンドビルドに象徴される建築から、ストックとなる長寿命建築が求められているとも言えます。このような背景は、地球環境問題を視座した持続可能な社会と、建築・都市デザインの追求でもあります。

さて、2003長崎市都市景観賞の受賞建築物等が決定され、表彰が行われることになりました。今回は、隔年表彰2回目の年となり、応募件数は170件で、前回より約100件少なくなっています。

しかし、今回の選考で目につくことは、受賞作品が、これからの建築のあり方や、街並み景観の質を高める方向性を示唆するものであるということです。

都市景観賞に選ばれた3件のうち、大きな建物部門の「国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館」は、平和公園の緩やかな傾斜地に、周囲の景観に配慮し、建物の大部分を地下に埋め込み、緑に囲まれた静かな建物で、コンセプトの明快さと質の高い空間を創出しています。

テーマ部門の「長崎総合科学大学 人間環境学部棟（旧長崎水族館）」は、長崎市民に親しまれた水族館が、建物の保存か取り壊しかで大きな議論を生みましたが、リニューアルという選択肢の中で、建物が見事に再生されたことが評価されました。

同じくテーマ部門の「福砂屋 松が枝店」は、店舗そのものが、街角を演出するディスプレイとして評価されたもので、店舗建築の新しい方向性を示唆するものであります。

都市景観奨励賞に選ばれた2件のうち、大きな建物部門の「長崎ペンギン水族館」は、建物と自然体験ゾーンのビオトープや人と川との親水性に配慮した自然再生工法、人工海浜が一体となって評価されたものであります。

また、小さな建物部門の「八幡町公民館」は、落ち着いた町屋風の建物で、和瓦の屋根や黒い壁、窓枠などにより、由緒ある町の雰囲気伝えており、伝統のくち出し物の船蔵もバランスよく収められており、今後の町内公民館のあり方として参考になる建物であります。

歴史のある部門は、残念ながら推薦されたものの中に賞に該当するものはありませんでした。しかし、顕彰保存すべき歴史的建築物が、まだ多く存在しており、広範な市域をカバーできるいろいろな民間の組織的協力を得た推薦方法も検討されて良いのではないかと思います。一方、住宅やコーポラティブ住宅の中に、斜面空間の設計手法としてきりと光る作品もありましたが、都市景観賞の評価基準からすると、惜しまれながら姿を消すことになり、美しい街並みへの波及効果が期待できるものについては、建築奨励賞のような受け皿の用意など、新しい工夫も必要になるでしょう。

いずれにしても、これからの街並みや景観の魅力創出に本事業がますます重要性を増し、新しい時代にふさわしいまちづくりに寄与していくものと期待しております。

[選考委員会]

座長
宮原和明
長崎総合科学大学 教授 (建築)

委員
芥 寛
社団法人長崎県建築士事務所協会長崎支部 (建築)

荒木健治
長崎商工会議所青年部 (経済)

井川惺亮
長崎大学教育学部 教授 (現代美術)

池田賢一
社団法人日本建築家協会九州支部長崎会 (建築)

井石尚子
ザ・ながさき (マスコミ)

岡林隆敏
長崎大学工学部 教授 (土木工学)

城尾忠明
マイティール・スパロウ 代表取締役 (経済)

津田桂子
わらべ文庫主宰 (文学)

津田礼子
活水女子短期大学 助教授 (環境デザイン)

林田米松
長崎県グリーン事業協同組合 (造園)

伴丈正志
長崎総合科学大学 助教授 (建築)

北郷雅子
フラワーデザイナー (デザイン)

山崎加代子
グラフィックデザイナー (デザイン)

吉岡規子
サンモーブ 代表取締役 (色彩)

吉原明俊
ながさきプレス (マスコミ)



第13回
長崎市都市景観賞
2003

『大きな建物部門』

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館



〔選定理由〕

西には原爆資料館、北に平和会館に囲まれた、南に緩やかに傾斜をもつ敷地に、両館をつなぐ静謐な建築が生まれた。白地に黒のストライプをなすペーパメントにその全体が埋め込まれ、地上には長さ15m高さ3mの2列の淡いグリーンガラスの箱が、水深約5cmで直径約30mの水盤に地下から建ち上がり、この水盤の周囲を約5mの高さのシラカシが取り巻いている。

南からの入場者は、前面の庭を眺め、外周を歩きながら、最も遠い入口に向かう。その案内を示すガラスの壁に従って、水盤とシラカシの間の円周のアプローチ通路へと自然に誘導される。地上の敷地にも樹木が境界や領域を形づくりながら、一部にはバスの駐車スペースを用意している。

夜になると水盤にも反射されたガラスの光の壁が白く浮かび上がり、さらに被爆直後亡くなった約7万人の命を表す光の粒が水に灯され、荘厳で幻想的な宇宙が現出する。ガラスの2列の壁とペーパメントの黒いストライプは並列して、爆心地への軸線を表している。この場所の特性を建築とランドスケープの相互によって見事に活かした同館は、まさに長崎市都市景観賞を得るにふさわしいのみならず、我々選考委員の誇りともいえる作品である。(伴丈 正志)

所在地：平野町7番8号
構造：鉄筋コンクリート造
用途：祈念館
延べ面積：2,999.58㎡
階数：地上1階地下2階
高さ：3.84m（地上部分）

■所有者■
厚生労働省
東京都千代田区霞ヶ関1丁目2-2

（事業者）
国土交通省 九州地方整備局 管総部
福岡市博多区博多駅東2丁目10-7

■設計者■
株式会社総合計画事務所
東京都文京区湯島1-2-12-202

■施工者（主体工事）■
大林・熊谷特定建設共同企業体
（株）大林組九州支店 常務取締役支店長 松本 國夫
福岡市博多区下川端町9-12福岡武田ビル内
（株）熊谷組九州支店 支店長 丸山 幸次
福岡市中央区古小島町81

■施工者（電気工事）■
東邦電気工業(株)九州支店（電力工事）執行役員九州支店長 加治屋光昭
福岡市博多区博多駅東1丁目12-17-6階

（株）電工社（通信工事）代表取締役 中村 一喜
長崎市緑町3-6

■施工者（管工事）■
エルゴテック(株)九州支店（空調工事）支店長 川本 朝正
福岡市博多区博多駅東1丁目13-6

誠和工業(株)（衛生工事）代表取締役 前田 芳宏
長崎市田中町311-1

■施工者（植栽工事）■
（株）兄弟緑地 代表取締役 渡邊 忠道
長崎市古賀町2151

（株）電発環境緑化センター 代表取締役 吉塚 剛
東京都千代田区九段北4丁目2-5

■施工者（エレベーター工事）■
（株）日立製作所九州支社 支社長 市山 信也
福岡市早良区百道浜2-1-1



第13回
長崎市都市景観賞
2003

【テーマ部門：建築リニューアル賞】

長崎総合科学大学人間環境学部棟 (旧長崎水族館)



【選定理由】

対象建物は昭和32年に長崎出身の建築家、武基雄氏によって設計され、当時は、東洋一の水族館と謳われ、戦後生まれの長崎市民は小学生の時に一度は見学に行った思い出の建物である。近年所有者が長崎総合科学大学に移り、建物の保存か、取り壊しかで大きな議論を生んだが、リニューアルという選択肢の中で、建物は見事に再生された。正面の広場、玄関へのアプローチは、元のイメージをそのまま残している。石造りの外壁と新しいデザインの壁が見事に調和した建物である。

最近、長崎では歴史ある建物の保存か、新築かで、困難な選択を迫られている中で、この対象物は、古いものと新しいものを融合していく指針を示した建物でもある。

都市景観賞のテーマ部門はモニュメントや町並みが多かったが、建築の再生がテーマであることに非常に意義がある。またこのような作品が選ばれたことで今後の長崎の景観形成にも大きく貢献していくのではないだろうか。(池田 賢一)

所在地：宿町3番地1

構造：鉄骨鉄筋コンクリート造一部鉄骨造

用途：大学

延べ面積：3,481.28㎡

階数：地上4階

高さ：15.625m

■所有者■

学校法人長崎総合科学大学 理事長 田中 重徳
長崎市網場町536

■監修者■

長崎総合科学大学 名誉教授・顧問 石野 治

■設計者■

(株)日建設計 代表取締役社長 中村 光男
大阪市中央区高麗橋4-6-2

■施工者■

西日本菱重興産(株) 取締役社長 田村 和雄
長崎市飽の浦町5-3



『テーマ部門：街角ディスプレイ賞』
福砂屋 松が枝店



【選定理由】

建物自体は、小ぶりなもの色彩学的には外装の色、照明効果とも最高得点と言える。

まず、カステラという単品訴求の店舗を、イメージを損なわず見事にモダンに活かしながら、しかも周りの環境に調和させた彩度の取り方はなんともすばらしい。

また、外壁のデザインと照明は、店内の顧客をウィンドウのマネキンのようにスタイル良く美しく見せるという演出効果をあげる。近年注目されている知覚心理学の錯視効果を店舗に応用した、希に見る成功例と言っていいだろう。

通常溢れるように見られる商品の大量陳列と値書きのPOPは、外からは一切見られず、店舗そのものが街角を演出するディスプレイとして、まさしくこの賞にふさわしく満場一致で評価された。(吉岡 規子)

所在地：松が枝町2番43号

構造：鉄骨造

用途：店舗

延べ面積：58.90㎡

階数：地上2階

高さ：12.134m

■所有者■

(株)福砂屋 代表取締役社長 殿村 育生

長崎市船大工町3-1

■設計者■

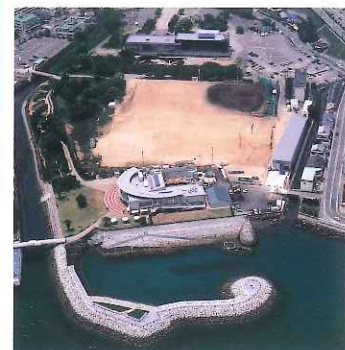
中村享一設計室(有) 代表取締役 中村 享一

福岡市中央区谷2-9-1



第13回
長崎市都市景観賞 奨励賞
2003

【大きな建物部門】
長崎ペンギン水族館



【選定理由】

ペンギンの飼育数日本一という誇りを胸に、2001年4月にオープンした長崎ペンギン水族館。外壁の1階部分には、旧長崎水族館の名残りとなる諫早石を使用。外側からはわかりにくいですが、内部に楕円、そして四角い外壁がそれをグルッと囲むような全体構造となっており、楕円をペンギンの“卵”、四角い外壁をペンギンの“羽”に見立て、母が卵をしっかり温めているという、ペンギンへの深い愛情が込められたイメージとなっている。

また、周辺の自然環境との調和を意識し、建物の色はあえて抑え目に。建物の前面から、近くを流れる川に向かって広々と取られた芝のスペースは、人と川との親水性への配慮も施されており、駐車場と水族館を結ぶ敷地に作られた自然体験ゾーン（ビオトープ）と共に、子どもたちに夢を与えるための重要な役割も担っているのだ。一見、冷たいイメージを抱かせる近代的佇まいの鉄筋コンクリート造2階建ての長崎ペンギン水族館。だが、デザインや色などに込められたテーマを知ると、“自然と人との共存”という原点回帰への道しるべ的存在に、最も近い建物であるのではないかと思わずにはいられない。（井石 尚子）

所在地：宿町3番地16
構造：鉄筋コンクリート造
用途：水族館
延べ面積：2,939.18㎡
階数：地上2階
高さ：12.400m

■所有者■

長崎市長
長崎市桜町2-22

■設計者■

小西・M.M実施設計業務共同企業体
株式会社三省設計事務所 代表取締役 三好 定和
長崎市興善町5-1丸善ハynesコーポ2階
株式会社M・M設計 代表取締役 古木 正夫
長崎市三原2丁目13-40

■施工者（主体工事）■

植野・平石特定建設工事共同企業体
株式会社植野建設 代表取締役 植野 平
長崎市花園町5-2
株式会社平石建設 代表取締役 平石 修三
長崎市平和町19-14

■施工者（電気工事）■

第三・イナツマ特定建設工事共同企業体
株式会社第三電機 代表取締役 河村 和行
長崎市松が枝町5-39
株式会社イナツマ電気工事 代表取締役 犬塚 貴雄
長崎市西山1丁目2-3

■施工者（管工事）■

日本冷熱・森機工特定建設工事共同企業体
株式会社日本冷熱 代表取締役 前野 十一郎
長崎市民教町11-13
株式会社森機工商会 代表取締役 森 昭之
長崎市民教町7-19

■自然体験ゾーン監修■

自然史研究者 布袋 厚

■自然体験ゾーン施工者■

長崎緑化推進事業協同組合（自然育成）
代表理事 松本 勝男
長崎市民教町2424-1
土橋緑化建設株式会社（植栽）
代表取締役 土橋 康二
長崎市民教町4-44中村ビル2階



第13回
長崎市都市景観賞 奨励賞
2003

【小さな建物部門】
八幡町公民館



【選定理由】

中島川の河畔に公民館らしくない建物が竣工しています。新築だと感じさせない、町並みになじんだ、落ち着いた町屋風の建物です。和瓦ぶきの屋根、庇、黒い窓枠、黒い壁、木製の車防止柵等、由緒ある町の雰囲気伝えてくれます。

正面の一部にくんちの出し物「弓矢八幡祝い船」船蔵がバランスよく納まっています。町内の皆様が普段着で気楽に集まれるコミュニティ会場だと感じます。今後各町内の公民館のあり方として参考になる建物です。(芥 寛)

所在地：八幡町3番9号
構造：鉄骨造
用途：公民館
延べ面積：259.8㎡
階数：地上2階一部3階建
高さ：8.896m

■所有者■
八幡町自治会
長崎市八幡町6-2

■設計者■
マツモト鉄建株式会社一級建築士事務所 代表取締役 松元 栄一郎
長崎市八幡町4-5

■施工者■
マツモト鉄建株式会社 代表取締役 松元 栄一郎
長崎市八幡町4-5





長崎市都市景観賞表彰実行委員会